

## フィリップ・ハモンド英外相の狂った「国際基準」

【訳者注】この若い女性ジャーナリストの、いたって健全な感覚と常識は、残念なことに、日本を含めた米同盟国の政府やメディアに共有されていない。それによって国民（読者・視聴者）一般が狂わされていることに気づくべきである。

ここで言われていることを喩えるならこうなる。——商店街や露天商を取り仕切っている暴力団がいる。商人たちは長い習慣で、彼らに忠誠を尽くすことによって、安全に商売をさせてもらっている。だから彼らがどんな違法行為を働こうと、それは違法として意識されないか、たとえ違法だと思われても、それを指摘しないことが礼儀になっている。指摘するにしても、彼らの論理に従わなければならない。彼らが敵だと言うものは、どんなに理不尽であろうと、我々の敵でなければならない。そもそも独自に事実を調査し判断することが僭越である。我々は、独立した人間としての誇りや見識をもってはならない、それが掟だ——ダニエラ・ライアンは、我々の生きているそういう世界の、異常さ・滑稽さを指摘している。この滑稽な自己像が日本人一般に共有されることが、第一歩ではなかろうか？

Danielle Ryan

RT (Russia Today), March 31, 2016



ロシアが、周辺諸国にとって一つの“脅威”にすぎなかった古きよき日は去った。モスクワは今では、“我々すべて”に対する脅威になっている、と英外相フィリップ・ハモンドは言っている。

ジョージアへの訪問中に、ロイター通信に対して、ハモンドは、ロシアはすべての国にとって脅威である、その理由は、ロシアが「国際的な行動の基準を無視し、国際的なシステムのルールを破っているからで、これは我々すべてにとって挑戦であり脅威である」と言った。

<http://uk.reuters.com/article/uk-britain-georgia-hammond-idUKKCN0WW1HR>

まず小さな問題だが、これはおそらく、ロシアの同盟国が聞き捨てならないことである。ハモンドのコメントは、西側のリーダーや代表者が、“我々と我々の仲間”と言うべきところを、“我々みんな”とか“国際社会”とか一括りに言う、無礼なやり方の典型的な例である。

しかしこれは今言ったように、ハモンドが自分の意見を正当化するために使う、乱暴極まる、偽善的な理屈に比べれば、小さな問題である。



英国外相 Philip Hammond

## 国際法、ただ我々は例外

2014年3月、ジュネーブのウェブスター大学、国際関係学部の国際法教授 Curtis FJ Doebbler が CounterPunch 誌に、「法の根源はすべてそうだが、国際法の合法性の大部分は、それがすべての国に平等に適用されることに依拠している」と書いた。これは、問題がアメリカになると、そうになっていないのは明らかである。

<http://www.counterpunch.org/2014/03/06/american-hypocrisy-on-international-law/>

デブラーは続けて言う——アメリカの法律家や外交官は、国際法を捻じ曲げて「アメリカの行動を正当化する道具にしようとし、一方、それに基づいた他国の行動を、（この法の）誤った解釈だとか誤った適用だとか言って、批判している。」

ここには全く何の疑問もない。これは異論の余地なく真実である。ワシントンの歴然とした国際法無視の例をすべて並べ立てるとしたら、いくら時間があっても足りない。しかし、中でもとりわけ酷いものを、いくつかここに簡単に要約しておこう——

- \* 2001年のアメリカのアフガニスタン侵攻、国際法のもとで違法——問題になった市民の死は、ガーディアン紙の推計によれば、紛争の1年目だけで、2万に及ぶ可能性がある。<http://www.theguardian.com/world/2002/may/20/afghanistan.comment>
- \* 2003年のイラク侵攻、国際法によって違法——さまざまな報告によれば、1千万の死者が出た。

<http://www.reuters.com/article/us-iraq-deaths-survey-idUSL3048857920080130>

- \* 2001年のNATOによるリビアへの介入は、NATOの行動を容認する国連決議の基準を破っている、したがってこれも違法。この介入によって、数百人の市民が死に、数十万の市民が住処を追われた。かつてアフリカで最も豊かだったリビアが、現在、国家として機能していない。 <http://www.counterpunch.org/2011/03/28/why-the-attack-on-libya-is-illegal/>
- \* 2014年のアメリカのシリア爆撃、国際法によって違法。ワシントンは、シリアで空爆を行ういかなる許可も与えられていない。これは連合王国も同様（誰かハモンドに教えてやってほしい）。
- \* 現在進行中のドローンによる攻撃、子供を含む何百人もの無辜の人々を殺している。 <http://www.counterpunch.org/2012/05/15/five-reasons-drone-assassinations-are-illegal/>
- \* グアantanamo湾が継続して使われ、脅威と“感じられた”人々の無期限の拘束と拷問が行われている。最も明らかな不正の一つとして、Skaker Aamer は、イギリスの家族と再会できるまでに、グアantanamoに13年間、裁判も起訴もなしに拘束された。 <https://www.amnesty.org.uk/guantanamo-bay-human-rights>

このうちのどれ一つとして議論のテーブルに上がっていない——にもかかわらず、ハモンドは、私の知る限り、アメリカを“我々すべて”に対する脅威として分類したことはない。国際法を破ることがここで問題になっているのなら、当然、彼はそうすべきである。

## 侵略の一つや二つ、仲間同士の間で何が問題だ？

不幸なことに、ハモンドがやってみせたように、西側諸国はしばしば、“仲間内の合意”を“合法的”の意味に混同して使う。そのようなものとして、彼らは、自分たちの行動が、彼らの宣言する敵の行動と同じように、精査されねばならないものだとは全く考えない。しかし、それだからといって彼らは、国際法というものを、他国を非難する“政治的レトリックの道具”に利用することを、やめるわけではない。

<http://www.counterpunch.org/2014/03/06/american-hypocrisy-on-international-law/>

ワシントンはこれまで、国際的な“基準”や“国際的システムのルール”に対する、あまりにも露骨な無視の態度を一貫して示してきたので、世界はそれを感じなくなってしまった。我々の集会的無関心がつくり出してきた、この習慣の恐ろしさを認めることは、あまりにも不愉快である。我々はこれを説明するのに、悪霊のようなものを考え出して、理屈をつけるより仕方あるまい。

ハモンドは頭を砂に隠して、うまくいくと思っているのかもしれない。しかし、すべての事

実がテーブルに並べられたときには、彼の説明がそれによって、少しでも滑稽でなくなるわけではない。

## ハモンドの本当の意図は何か？

そしてハモンドが、ロシアのイギリスに対する脅威をひどく誇張した（それとも、でっちあげた）のは、これが初めてではない。昨年3月に彼は、ロシアは潜在的に、イギリスの安全保障に対する、“ただ一つの最大の脅威”になりうると言った。これを信ずるには、どんな種類の代替宇宙に住む必要があるのか、明らかでない。しかし明らかなのは、ハモンドがそういう世界を作り上げて、そこに住んでいるということである。

<http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/europe/russia/11461324/Putins-Russia-could-be-single-greatest-threat-to-Britains-security-Philip-Hammond-warns.html>

実を言えば、ハモンドや、空想の国に住む彼の隣人たちが、そんなことを言うときに、本当に言おうとしているのは、ロシアは西側の支配にとって脅威だということである。つまりその支配とは、彼ら自身の国際法の侵犯を、無制限な、罰せられないものにし、その他の国の侵犯は何千倍も厳しく罰するようにする、そういう支配である。国際的な問題において、彼らの覇権に脅威を与え、挑戦することは許されない。そして、それこそ何にも増して、ロシアが与える脅威である。

おかしいことは、ハモンドはおそらく、それが彼の意図だとは思っていないことである。彼はおそらく、ロシアが、イギリスの安全保障を脅かしていると心から信じている。この戦争が、侵略の形を取るか、挑発なしの核攻撃になるか、情報戦争になるか、何になると彼が考えていようと、彼はおそらく、本当に途方もなく大きな心配ごとが存在すると、確信している。なにしろ彼は、“ほぼ 50 歳以上の誰にとっても”ロシアを恐れることは当たり前のことだと認めている。彼は、今日のロシアや、その政治システム、外交政策の専門家ではない。彼が本当に頼っているものは、冷戦時代の彼のよくない記憶、それに彼が与えられている、恐ろしく勘違いした忠告だけである。

しかし、それが脅迫であろうとなかろうと、もし“国際的システムのルール”が、フィリップ・ハモンドにとって、本当にそれほど重要であるなら、彼はそれを実に滑稽なやり方で表明している。

（ダニエラ・ライアンは、アイルランドの自由契約ジャーナリスト、メディア・アナリスト。彼女はかつてアメリカとドイツに住み、現在、モスクワを本拠にしている。以前、ダブリンの Sunday Business Post のデジタル・デスク・リポーターをしていた。ワシントン DC の

「政治とジャーナリズム・ワシントン・センター」で政治報道を学ぶ。彼女の関心の中心は、アメリカ外交政策、米露関係、メディアの偏見にある。)